

山行報告：赤ノ浦川ホトケ沢

【山 域】奥秩父前衛

【行動日】2017年6月10日（土） 晴れ

【参加者】CL 柘植（記）、SL 澤田路、菌田、石井

【ルート】神社駐車場 8:00→大嶽山那賀都神社 8:30→下の林道 10:10→左俣出合 20m滝 11:20
→上の林道 11:40→下山尾根分岐 12:15→神社駐車場 14:10



【内 容】

赤ノ浦川は上図のとおり、黒金山から西沢溪谷への登山道を集水域とした川。沢登りの対象としては途中で左へ分岐する滝ノ沢（2014年に遡行）のほうが記録は多いが、本流筋のホトケ沢も気になるので今回訪問することにした。大嶽山那賀都神社を過ぎて沢におりたところで身支度。堰堤を2つほど越えたところで、石井さんが体調不良を訴え、残念ながらリタイア。クルマのキーを渡して別れる。



大嶽山那賀都神社の参道



ここで石井さんとはお別れ

滝ノ沢分岐までは淡々とした河原歩き。ここを過ぎると少し傾斜が出てきて緩いナメ滝などが現れはじめたと思ったら、突然沢が左岸からの大規模な崩壊に埋め尽くされていた。恐らく上部の林道工事によるものと思われるが、これは織り込み済み。この上がまたきれいなナメ床になっていただけに、この下に何があったらどうかと想定すると惜しまれる。



ガレに埋め尽くされた沢



その上はきれいなナメ滝になる



水を浴びながら快適な遡行



堰堤工事現場

しばらくきれいなナメ滝がつづき、これは良いなと思っていたら、最初の林道が出てきた。ここに這い上がって向こう側を除くとなんと堰堤の工事中。今日は土曜日なのでお仕事の真っ最中だ。挨拶がてら中央を通り抜けさせてもらえるか聞きに行ったが、危ないので上のほうを巻いていってくれとのお達し。巻き道は薄いふみ跡があったので、多くはないがホトケ沢を遡行する人はいるようだ。ここからあとにもナメ滝の間に堰堤がいくつかあり、越えるのに本日の核心部みたいなのもあった。

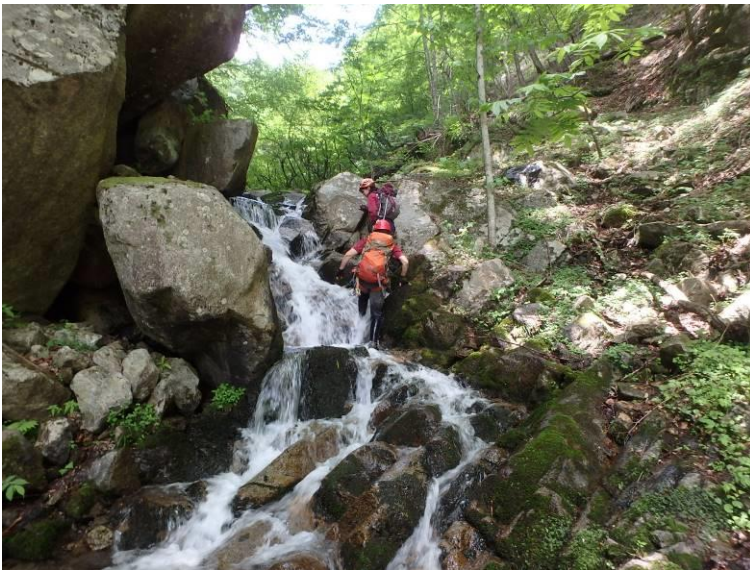


巻きルートの中から堰堤工事現場を見下す

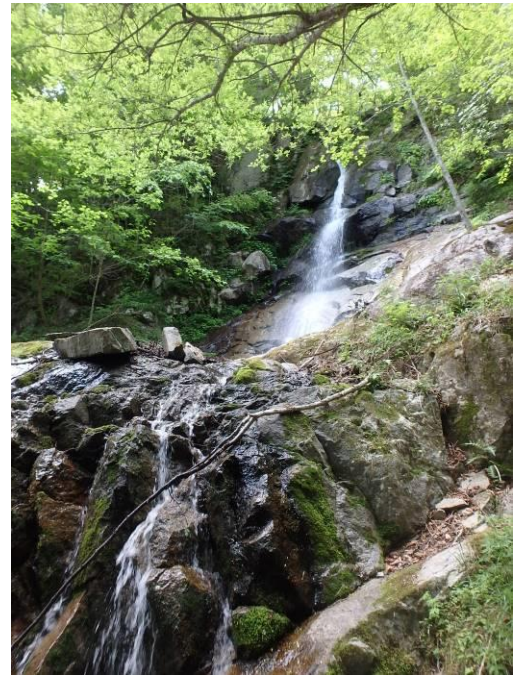


こんないい感じのところもある

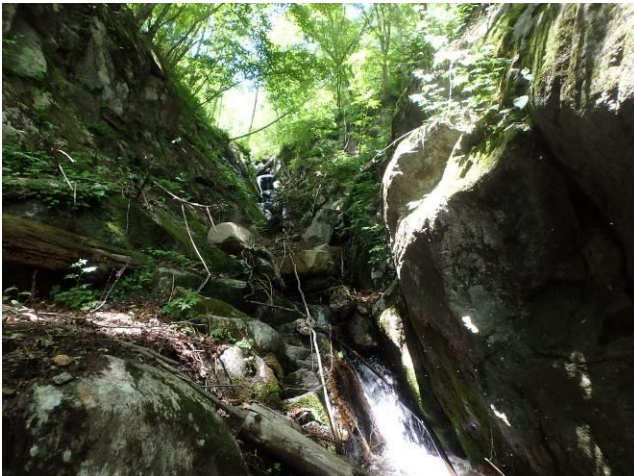
滑床と荒れた感じのところを繰り返しながら進む。もう上部の林道も間近と思われるところに左岸からきれいな滝が落ちてきていた。この滝は登れないのだが、巻いて登ると上には手ごろな小滝が続いているとかで、こちらに入っている記録もあるが、我々は本流を進む。すると沢は狭いゴルジュ状となり、小滝が続く。右手には上の林道の擁壁が見えてきたので、少し登ってから林道に這い上がった。



いい感じのところを登る



1470m 二俣にある 20m 滝



小ゴルジュ



林道へ

この先どうするかを考える。下では石井さんを待たせているし、今日はなんだか疲れてしまった感があるので、林道を東進し、下山予定の尾根まで続いていたらそのまま下山することにする。4年前の記録では林道は途中で終わっているのだが、4年のあいだに工事は進み、下山予定尾根の分岐までノンビリ歩きで到着してしまった。この尾根は国土地理院の地図には破線が載っているが、昭文社地図にはなんにも表示されていない。上部の尾根筋は藪もなく快適に進めたが、谷に降り始めると道型はまったくなくなり急斜面を適当に降りていく。水が出始めて再び沢靴に履き替えたほうがいいかなと思いながら、進んでいくと古い林道に出た。このすぐ下は集落で、「笛吹権三郎」という人の像があり、笛吹川の名前の由来を学んだ。駐車場までは10分くらいで、石井さんは体調も回復したようで安心した。

赤ノ浦川ホトケ沢は昔（奥秩父の谷123ルートに掲載されたころ）は中級向きの谷として結構登られていたようだが、林道工事がそのよさを完全につぶしてしまったようだ。同行していただいた3名（一人途中リタイヤで実質2名）には少し申し訳なかったが、個人的には気になっていた沢を消化というか確認できたので、満足でした。

記録担当：柘植